

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 93 (年4回発行)

■発行日 令和元年 9月30日
 ■発行 三春まちづくり協会
 ■編集 三春まちづくり協会広報部会
 三春町大字貝山字泉沢100-1 (旧若駒寮)
 TEL/FAX (62) 3988

『出前懇談会の開催』

― 田村会雑誌に見る
三春出身者の人脈について ―

八月七日、まほら学習室において出前懇談会を開催いたしました。今回は、歴史民俗資料館副館長(学芸員)でいらつしやいます藤井典子さんを講師にお招きして「田村会雑誌に見る三春出身者の人脈について」というテーマでお話をさせていただきました。

明治三十七年、田村青年会と三春会とが合同することで成立した「田村会」は、三春から遠く離れて活動する人たちにとって、いわゆる県人会のような役割を果たしていました。旧藩主秋田家や河野広中よりも、後に慶応義塾で教育学などを教える石田新太郎や、日露戦争で通訳として活躍した神成季吉などもその中に含まれます。意外なつながりが、地元三春にも影響を及ぼしていることを見ていきます。



「藤井典子さんが要旨をまとめた資料によりお話しされた人々の内容は以下の通りです。」

明治三十七年、在京の会であった田村青年会と三春会とが合同することで成立した「田村会」は、三春から遠く離れて活動する人たちにとって、いわゆる県人会のような役割を果たしていた(福島県人会が成立するのはこの後で、河野や加藤木重教らは、そこでも幹事となっていた)。

田村会は、機関誌として「田村会雑誌」を発行しており、ここでは、郷土に残った人も、郷土から出て活躍する人も、俳句や、和歌、漢詩やエッセイ、論文などを発表し、交流を深めていた。また戦地をはじめ

海外にいる人などのことについては、「消息」欄でその活躍を知らせていた。

田村会雑誌は、現在八号までしか存在を確認していないが、明治三十七年から大正初め頃までの三春出身者の動向を知るための貴重な資料と言える。

◎三浦守治(医学博士)

三浦守治は佐々木信綱の弟子として和歌の作品を「移岳集」として発刊している。大正四年に刊行されたこの本は、関東大震災後流通がなくなっていたが、その後の作品なども含めて昭和九年に再版された。この時、補遺などを行ったのが田村会雑誌を編集していた浪岡具雄であり、加藤木重教が起こした電気の友社が出版を行った。

◎三輪治家(ハワイ移民)

父は三春町の自由民権運動家であった三輪正治である。父・正治の訃報も田村会雑誌の中で紹介されており、三十九年十一月、福島病院にて亡くなったことがわかる。この時にはすでに勝沼富造を慕い、治家はハワイに移住していた。父も

晩年、移民事業に心を寄せていたとされる。

◎三輪たり子

加藤木重教の弟子である勝沼富造が、ハワイに渡ったのは明治三十一年のこと。その後日本から「楽園」ハワイを目指して多くの移民が海を渡った。富造は夫婦で移民したが、三輪治家は単身入植していた。

妻たり子は、明治三十七年に夫を追って、ひとり海を渡り、田村会の人々を驚かせた。田村郡内から海外へと渡った女性は、富造の妻ミネ(三春出身・遠藤常師長女)について二番目かもしれない。

◎村田茂助(医学)

医学博士であった村田謙太郎博士の弟。千葉医学専門学校(現在の千葉大学医学部)を卒業後、東京の赤十字病院に勤務、その後三春に戻り開業したとされる。

◎神成季吉(陸軍歩兵中尉・明治三十七年当)

明治八年三春町生まれ。明治二十五年高等商業学校に入学し、三十年七月卒業。明治三十一年日本郵船株式会社入社し、三十三年からロンドン支店勤務。英語を最も得意とし、ロシア語のほかにもロンドン支店勤務中にフランス語を学んでいた。日露戦争が勃発すると、日本郵船に頼み込み、日本に戻り従軍。勲功の明細書を読むと、補充大隊勤務となっていたが、三十七年六

月から大本営陸軍幕僚付となり、機密文書(主に英文)読解に関係していた。大会戦(奉天会戦)前夜には外国の電報が入り乱れ、通信員の出入り激しい中、功績は大きかったとして勲功乙から甲へ改められている。

次に神成の名前が見えるのは大正九年に行われた第十四回衆議院議員選挙である。広中最後の選挙となったこの時に、対抗馬として立憲政友会から出たのが神成季吉であった。その後、満州の好況期にいくつかの企業の投資と運営に携わり、大連商工会議所の役員などを務めていたようである。



◎石田新太郎(教育者)

明治三年三春町生まれ。昭和二年没。明治二十六年慶応大学文学部卒。教育・心理学などを修め、官僚・教育家として活躍する。後に慶応義塾大学に戻るが、広島地方幼年学校教官、台湾総督府国語学校教頭などを歴任したという。台湾国語学校を休職した彼は、アメリカに行く前に田村会に対し、講演会を行ったり、寄付をしたりなど尽力している。アメリカではカリ

フォルニア州に滞在し、スタンフォード大学に在籍、田村会雑誌に寄せた通信では、大学の建築が極めて広壮であり、中でも図書館や教会、博物館などが最も精巧であるとしている。スタンフォードでは、ジャパニーズ・スチューデント・クラブ(日本人学生宿舍)に滞在し、その時点で苦学生が、十五人、このクラブには四名が滞在し、一人一人か月食費八ドル、室料二ドルであるとする(明治三十八年のレートは一ドル約二円。当時では一〜二万円)。大学の講義もあるので、苦学生たちは時給二十銭で働いていた(ビール大瓶一本十九銭ほど)。

帰国後は他の大学の講師などをしていたが、四十一年に慶応大学に戻る。

江戸時代には学ぶと言えば儒学だったが、もうすでにこのころには文学や歴史には人気があまりなく、理財(経済)・法学などに人氣が集中していた。講師から事務の方々もやってみたりと幹事職を受け、石田は文学科の発展について森陽外に相談し、文芸雑誌(三田文学)の創刊が決まり、永井荷風を主幹としてお願いすることになった。

明治四十四年には朝鮮総監府視学官となり、当時の外地の教育に携わる。四十五年慶応義塾に再び戻り、医科の成立に尽力、その後日本成人教育協会を組織、わが国成人教育の創始者として貢献した。

《初心に聴く》

シリーズ⑮

今年も、多くの方が三春まちづくり協会のスタッフとして加わり、協会運営にご協力いただくことになりました。本号では、新任委員の方々から『まちづくり協会活動に携わる初心』をお聴きし、協会へ新たな息吹を感じさせていただくこととしました。

地域部会

柳沼 薫さん
今年度より地域部会委員としてお世話になります。

三春まちづくり協会の基本方針の『地区民の意向を尊重し、自主的活動を通じての成果を町政に反映させるとともに、「みんなが安心して暮らせる地域づくり」を目的としている』というなかで、自分に何が出来るかと考えた時、消防活動を通して学び経験したことが活かされている事があると感じました。

これから様々な活動を部会委員の皆様と協力して進めていきたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

環境部会

橋本 武さん

今年度、商工会の関わりから、三春まちづくり協会の環境部会にお世話になることになりました。とはいえ、何せ初めてのことで、環境部会とは、何をするのか

すら分からないままの一員です。ハード面での環境を整えていくことはもちろんながら一人一人が身近な足元から、お互いに温かい関心をもって、お互い様の精神で、支えあい、補い合い、助け合っている心をつくっていくことが、一番の暮らしやすい環境を作り出していくのではないかと思います。部会長はじめ、会員の皆様に教えて頂き、又、一緒に考え合いながら、環境部会のテーマである「誰もが暮らしやすいまちづくり活動」に参加してまいりたいと思います。よろしくお願いたします。

生涯学習部会

桑山トミ子さん

私の一番のお気に入り、田村高校側より登る月山館の立て札から見下ろす学校と周辺の桜です。そして光岩寺に咲き誇る歴史的な、コヒガン桜の木の数々。また北町から城山に向かう途中の滝桜の孫の様な格好いい枝垂れ桜に水芭蕉を横目に山頂へ。そこはまるで天国のような大木と若木の競演、花弁が舞い散り頬にも伝わりません。

下草のタンポポや小さい無数の花たちが「俺も見てくれ」と言わんばかりに突き出ていました。こんなステキな町に心許せる幾人もの友達に囲まれて、人生の秋を迎えることに感謝です。

城山の中央に陣取り（出しかつて）山の大地に接吻。

この時期に家の中に籠ってなんかいられません！役場のわきで観光案内をさせてもらいました。お客様は多種多様な質問されますが場所の方向とか、解かる範囲でのお手伝いは楽しい触れ合いでもありました。

春が終わり新緑を迎えた五月より今年も念願だった会津三十三観音を制覇することに、現在二十番目御山観音堂まで拝顔できました。第十五番の高瀬観音ではなんと一千年の滝桜に酔いしれている私はその倍近い根回りのケヤキの古木を目前に負けたかのように驚いたのでした。

そこは藩政時代、直江兼続に一望に見渡せる会津にお城を作らせるよう命ぜられていたそう、実現には至らなかったと立て札に書いてありました。多くの先人達が汗と涙の結晶でこの会津の広大な盆地が出来たのかと深く感銘いたしました。

時代は流れて大きい道路や田畑が見知らず柿の丘になつていたり、新しい町を感じています。その中でも大切に守られてきたケヤキの古木や三春滝桜とその子孫木を次世代にキチンとバトンタッチしなければという責任感を感じた今日この頃です。

それにしても三春大町の紫雲閣は復活出来ないのでしょうか。紫雲閣の窓から町内の桜を眺める桜の共演は圧感です。何とか修復されてあの座敷より三春町の

部会だより

「グループホームの視察研修」

福祉部会

加藤 愛子さん

梅雨の晴れ間となった七月十日、熊耳にある、なごみの里グループホームを訪れました。

グループホームとは、介護が必要な認知症の方々が、今までの生活を継続しながら認知症の進行を改善できるように少人数の中で

スタッフと共に生活を育む場所だそう。バリアフリーの玄関を入ると明るく広いホールがあり、その先に部屋があります。利用者の方の希望により、畳の敷かれた部屋や



使いやすい配置された棚等がありました。部屋には、トイレがなく、職員の介助で共用のトイレまで移動して排泄を促すなど、自立支援の取り組みを多くしているそうです。

私がとても関心を持ったのは、利用者の体重とBMIをグラフ化して、低栄養にならないよう栄養管理がしっかりとされている事でした。

自分の人生最期はどうなるのか、もちろんわかりませんが、この視察研修でいろいろ考える機会を与えていただきました。そして、お忙しい中時間を作ってくださいました職員の方々に、ありがとうございます。

第16回「三春秋まつり」 & 第12回「石柱拓本ラリー」開催のお知らせ

恒例の“三春秋まつり”が下記により開催されます。三春まちづくり協会も協賛事業として街並部会が中心となり、石柱設置活動の紹介と石柱拓本ラリーの開催を企画し参加の予定です。

記

☆期日：令和元年11月2日(土)～3日(日)
両日とも午前9時30分～午後4時

☆会場：三春町運動公園

☆内容：協賛各団体による陳列・即売・イベント等
(詳しい内容は「広報みはる」・開催チラシ等で案内されます)

— 町民の皆さん、是非ご参加ください —

編集後記

春になると町内の多くの桜の木々にかわいいピンクの花を咲かせ人々を魅了し、街は活気に包まれ賑わいを見せます▼そんな桜のシーズンに私の好きな龍隠院から愛宕神社までの散策路を紹介したいと思えます。龍隠院の本堂左側に赤い前掛けをした六地藏の桜が見事なまでに花を咲かせ六地藏と共に心を和ませてくれます。そこを通り過ぎ散策路に入ると左側の木々の間から陽が差し込み若葉が色鮮やかで散策路を奥へ奥へと導いてくれます▼林を抜けると視界が開け雪をかぶった安達太良連峰と遠くに那須連山が見え吹く風が心地良くいつまでも立ち竦んでいられます。

限られた時間なので散策路を進むと太い枝垂れ桜の根本へ、そこからの展望が町内とお城山が桜の間から一望できる絶景ポイントです▼大町より駅方面に向かうと正面にお寺があり、その上に大きな枝垂れ桜が見える所になります。

そよぐ風に枝が揺れ、ゆっくりと流れる雲に体と心が癒されます▼そんな素晴らしい自然に感動しながら竹林を過ぎ愛宕神社へと約一時間の散策時間を楽しめたい。

来年、ぜひ春に散策してみたいかがでしょうか。

(今泉 栄治)

コミュニティだより
「三春わが街」第九十三号
発行日 令和元年九月三十日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広 報 部 会
三春町大字真字泉二〇一
(六二) 三九八八